

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1)教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。 (2)教職員間の更なるコンプライアンス意識の向上に努める。 (3)広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりの広報を積極的に行う。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ②教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②教職員のコンプライアンス意識の徹底 ③学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信の推進	評価指標 ①-1 各種教職員研修の実施 【各学期3回以上】 ①-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教員組織としての意思統一を図る。 【セキュリティ研修：年3回以上】	評価指標の達成度 ①-1 教職員研修等 【1学期：5回，2学期：4回，3学期：3回】 ①-2 定期的な情報セキュリティに関する啓発並びに教職員の意識向上を図る。 【情報セキュリティ研修：12回実施】	評定 A A A	総合評価 A (所 見) ・学校運営に向けた取組を推進する上で教職員間の相互連携及び協力体制が構築されつつある。 ・効率的な業務の執行並びに精選を推進するとともに情報セキュリティに関して教職員全体の資質向上を図ることができた。 ・教職員間の連携により担当者を中心とする地域連携プログラムを計画的に実践していくことでキャリア教育の推進につなげることができた。 ・業務の見直しとともに職場環境の更なる改善を図ることで教職員間の意思疎通も進み、風通しの良い職場環境づくりを推進することができた。 ・学教行事や様々な取組をタイムリーに発信することができた。また、メディア等に取り上げられる機会も多く、本校の教育内容の広報につながった。 ・体験入学での中学生の満足度は高いものの、参加者も少なく進学希望率に繁栄されておらず、魅力ある教育活動の積極的な発信が必要である。	I) 学校運営の中で神山分校としての在り方をもう一つの重点項目として掲げた取組を示すことも必要ではないか。 ① 本年度より具体的に地域を教材とした特色ある教育活動が始まっており、その中で分校の魅力化についても協議している。 ② 本年度から学校設定科目「神山創造学」の導入により、様々な取組についての目的理解や地域の未来の担い手としての意識付けができつつある。
		②-1 風通しの良い職場環境度合いを図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】 ②-2 コンプライアンス意識の向上割合 【向上率：85%以上】	②-1 共通理解・協力体制の充実を含む教職員間の団結 【組織充実度：97.5% (6.3%増)】 ②-2 常に教育公務員としての自覚を継続する。 【認識度：87.9%】	A A	・地域連携・学校活動報告の充実 【ホームページ更新回数：20回】 【アクセス数：33,717件(1.19倍)】 ③-2 中学生体験入学参加者16名 【中学生満足度：90.7% (2.5%増)】 【本校への関心度：25% (7.4%増)】	① 本年度より具体的に地域を教材とした特色ある教育活動が始まっており、その中で分校の魅力化についても協議している。 ② 本年度から学校設定科目「神山創造学」の導入により、様々な取組についての目的理解や地域の未来の担い手としての意識付けができつつある。
		活動計画 ①-1 教職員の資質向上のための研修会を実施する。 ①-2 コンピュータ・メソッドの共有フォルダを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。	活動計画の実施状況 ①-1 継続的な研修の実施とともに分校教育を考えるワークショップを開催した。 ①-2 コンピュータの分離によるドメイン内の整理を実施し、データ保存の区分けを明確化した。 ①-3 「チーム学校」として組織力を活かした指導体制づくりが推進できた。	A A	・業務の見直しとともに職場環境の更なる改善を図ることで教職員間の意思疎通も進み、風通しの良い職場環境づくりを推進することができた。 ・学教行事や様々な取組をタイムリーに発信することができた。また、メディア等に取り上げられる機会も多く、本校の教育内容の広報につながった。 ・体験入学での中学生の満足度は高いものの、参加者も少なく進学希望率に繁栄されておらず、魅力ある教育活動の積極的な発信が必要である。	○ 情報セキュリティの構築が進む中、教職員全体の資質向上を目指した取組を推進する必要がある。 ○ 各種教職員研修の実施により教職員の資質向上並びに組織としての共通理解を図る機会としての活用を進める。 ○ 積極的な地域連携活動を進める上で、計画性を持ち、継続的な取組へとするために、生徒の目的理解と実践後の振り返り・まとめを徹底させる必要がある。 ○ ホームページの運営に関して、学校全体に目を向けリアルタイムな情報発信を心掛けると同時に地域連携の活動等、神山町とリンクし、より詳細に伝える中で、学校の広報に繋げたい。
		③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の増加 【年間1万件以上】 ③-2 体験入学における中学生の満足度の向上 (保護者を含む)	③-1 地域連携・学校活動報告の充実 【ホームページ更新回数：20回】 【アクセス数：33,717件(1.19倍)】 ③-2 中学生体験入学参加者16名 【中学生満足度：90.7% (2.5%増)】 【本校への関心度：25% (7.4%増)】	A A	・体験入学での中学生の満足度は高いものの、参加者も少なく進学希望率に繁栄されておらず、魅力ある教育活動の積極的な発信が必要である。	○ ホームページの運営に関して、学校全体に目を向けリアルタイムな情報発信を心掛けると同時に地域連携の活動等、神山町とリンクし、より詳細に伝える中で、学校の広報に繋げたい。

【備考】 評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
2 確かな学力の育成	(全体レベル) (1)基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2)個性の伸張を図り、専門的な知識や技術を習得させる中でスペシャリストを育成を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上に向けた取り組み ②学校関係者評価アンケートの実施 ③図書室の活用率の向上 ④各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上	評価指標 ①-1 基礎学力の定着 小テストで、クラス平均点の上昇 【2,3年生4クラスでの達成】 ①-2 基礎学力の定着 【小テストで、年間成績優秀者延べ45名以上】 ①-3 図書室だよりの発行 【年間3回以上】 ①-4 読み聞かせ会の実施 【年間3回以上】	評価指標の達成度 ①-1 小テストクラス平均 2L 51,0⇒33,4 2D 63,5⇒44,9 3L 49,8⇒51,8 3D 46,7⇒48,9 ①-2 小テスト成績優秀者35名 ①-3 図書室だよりの発行3回 ①-4 読み聞かせ会の実施3回	評定 B 総合評価 C	I) 学力評価の仕方をどのようにしていくべきか。その個々の評価の仕方の工夫が必要だし、もっと人間力としての尺度をしっかりと判断すべきではないか。 ① 評価の仕方を再度見直し、総合的に人物評価できるように検討したい。 II) 生徒の目的意識の欠落等が見られる中、取り組む上での意識付けを確実に言い、早急にやる気を引き出す手立てが必要ではないか。 ① 進路指導の部分から目的意識の確立を図れるような手立てを考えていきたい。
		活動計画 ①-1 ホームルームの時間の活用など、教科以外での学習時間を確保する。 ①-2 学年に応じた学習への動機付けを工夫するなど、モチベーションの維持に努める。 ①-3 購入図書のご案内を定期的に行うなど、図書館だよりの発行により読書への意識づけに努める。 ①-4 図書委員会を中心として、学期に1回程度の読み聞かせを行うなかで読書活動を推進する。 ----- ②-1 検定試験では、合格率の向上を目指し、教科指導や時間外授業を活用する。 ②-2 担当教員を配置し、進捗状況を農場長が把握する。 ②-3 産学官連携事業で講師を依頼し積極的に体験型学習を推進していく。 ②-4 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させる。	活動計画の実施状況 ①-1 図書室利用回数28回 ①-2 DVD観賞なども取り入れ視覚的にも理解を深めた。 ①-3 購入希望アンケートをとり購入図書に可能な限り反映させた。 ①-4 今年度は、朝のSHRを利用して本の読み聞かせを実施しており、比較的スムーズに実施できた。 ----- ②-1 専門科目、農場当番、放課後の時間を活用した。 ②-2 各資格に担当教員を配置し、農場長への報告を行った。 ②-3 7月21日講師3名を招聘し技能講習を行った。 ②-4 造園技能検定、園芸装飾技能検定、刈払機講習、伐木講習、高所作業車運転講習に延べ98名が参加した。	(所見) ・基礎学力の定着では、かねてからの2年生の学力向上に向けての意識付けが引き続き課題となった。 ・図書室だよりの発行並びに読み聞かせについては、計画どおり実施できた。 ・資格検定の合格率に関しては、例年と比較して大幅に低下した。	

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
3 安心・安全の観点に立った学校教育の推進	(全体レベル) (1) 基本的生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 (2) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (3) 食の安心・安全の観点からのGAP教育を推進する。 ①基本的生活習慣の確立 ①よりよく生きるための資質を育成(道徳教育) ②特別支援体制の確立及び関係機関との連携推進 ③適切な農薬散布の実施や農場整備	①-1 頭髪・服装検査の実施並びに違反者への改善指導の実施【違反者率：5%未満】 ①-2 全校集会の実施【各学期2回以上】 ①-3 SNSの使用並びに公共機関利用におけるマナーアップ指導の実施【年間3回以上】 ①-4 神農クラブによる挨拶運動の実施【各学期に1回以上】	①-1 毎月1回以上の実施済み、違反者への改善指導は継続中【達成率：90%】 ①-2 計画通りに実施され状況に応じて対応できている。 ①-3 4月に防犯教室を開催済み。乗車指導も計画的に実施できている。 ①-4 神農クラブによる挨拶運動【各学期：1回実施済み】	B	(所見) ・生徒の学校生活の現状は、落ち着いており、重大な生徒指導事案は発生していない。しかし、軽微な校則違反や服装違反は発生している。全教職員で協力し安心・安全な学校生活への支援や過ごしやすい学校環境を整えたい。 ・特別支援が必要な生徒はいるが、どの生徒も今のところ周りとのトラブル等もなく、落ち着いて学校生活を送っている。ただ、進学や就職を考えたときに、生徒に応じた適切な指導ができるようにしたい。 ・GAPを意識した授業展開やGAPの取組を生徒に理解させるように取り組んでいる。今後、GAP教育の推進に力を入れていきたい。
		②-1 担任、特別支援教育コーディネータが協力して、教育相談体制を整える。 ②-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上を図る。【理解度・満足度80%以上】	②-1 担任を中心に複数の教員が家庭訪問や面談を通して教育相談を行っている。 ②-2 知識・意識の向上を図るための特別支援教育研修会を開催できなかった。	D	
		③-1 GAP基準に基づき、スタチ栽培の点検や評価を実施【点検・評価年間：1回以上】 ③-2 GAP教育の授業展開の実施【各学期1回以上】	③-1 GAP優秀認証申請中。 ③-2 東京で実施される「全国自治体ホストタウンPRプログラム」で、本校のGAPの取組をPRした。【11月実施】	A	
		活動計画	活動計画の実施状況		
	①-1 毎月20日の校門指導を実施し、生徒の指導に役立てる。 ①-2 状況に応じて全校集会を実施し、全職員で支援、指導を行う。	①-1 計画どおり実施できており、生徒指導に効果がある。 ①-2 全職員が一丸となった支援・指導に取り組むことができている。			
	②-1 教育相談に使える場所を作り、生徒が気軽に相談できるような環境を整える。 ②-2 研修会で学んだことをもとに、教職員間で共通理解を図って支援が必要な生徒に対応する。	②-1 現在、「教育相談室」を本来の目的では使っておらず、相談しやすい環境を作れなかった。 ②-2 研修会を開くことができなかったが、支援の必要な生徒には複数の教員で指導した。			
	③ 農場の整備や農薬管理の徹底、スタチの栽培技術など改善していく。	③ 本年度、廃棄薬品の回収を12月に実施し、農薬の整理整頓を行っている。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価	学校関係者の意見		
4 キャリア教育の充実	(全体レベル) (1)インターンシップを取り入れ、望ましい職業観・勤労観の育成を図るとともに自らの将来設計の構築に努める。 (2)進路情報の的確な提供による進路指導の充実を図る。 (3)関係機関等との連携による進路先の確保並びに指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①望ましい勤労観・職業観の育成のためガイダンス・進路相談等の充実 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③個々の希望に応じた進路開拓の推進 ③支援を必要とする生徒への進路決定に向けての対応	評価指標 ①-1 進路説明会を各学年で適期に実施する。【各学年 1回以上】 ①-2 入学時から自分の進路に関する目的意識を持たせる。【長期欠席者 8%以下】 ----- ②-1 オープンスクールや企業に関する情報を生徒に周知する。【オープンスクール参加率：90%以上】 ②-2 個別指導の徹底や出題問題の提供などを積極的に行う。【過去問等の情報提供：100%】 ----- ③-1 個人面談・三者面談を効果的に実施する。【面談実施率：100%】 ③-2 会社訪問や学校説明会への参加を積極的に実施する。【希望企業への訪問：5回以上】 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を実践する。【関係機関との連携：90%以上】	評価指標の達成度 ①-1 進路説明会については1,3年生はすでに実施。2年生は2回目の説明会を3月16日に実施予定である。 ①-2 折に触れ進路の状況を1・2年生に伝えている。 ----- ②-1 オープンスクールの参加率は100%である。また、生徒により同一校に複数回参加した。 ②-2 過去問などの提供は100%である。春先にすべて提供している。 ----- ③-1 実施中である。 ③-2 会社訪問や学校説明会共に当初の目標を達成している。 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を心がけている。また、相談等に関係機関とは十分に連携できた。	評価 価 ①-1 B ----- ②-1 A ----- ③-1 B ----- ③-2 B ----- ③-3 B	I) 一人一人のきめ細かな指導が実践できているので実践活動も含め、数値として具体的に示してほしい。 ① 今後は様々な取組等の成果を数値化し、具体的に示せるようにしていきたい。 II) 分校の希望者数の減少として、進学先が大きな要因の一つとなっている。今回の地元国立大学合格は、これからの大きなアピールとなる。 ① 個別指導を徹底する中で、進学に対しても幅広い対応ができるようにしていきたい。	○進学希望者については積極的なオープンスクールへの参加が定着してきた。ただ、進学のための資金の確保など家庭が抱える問題は相変わらずである。就職希望者については、早くからの面談等で、堅実は進路決定がなされているが、定着に関しては不安がある。 ○進路決定に向けての最大の課題は本人・保護者の進路に対する意欲を高めること、それはどのようなことが家庭で必要かを認識して実践するかである。学校における教育活動では限界があり、懸命な連携を図っているが根本的な問題が解決していないケースが多く、成果がなかなか上がらない。
		活動計画 ①-1 進路説明会や三者面談を適宜実施する。 ①-2 教職員組織の連携を強化する。 ----- ②-1 進路情報の提供を徹底する。 ②-2 補習体制を充実させる。 ----- ③-1 個人・三者面談による意思確認を積極的に行う。 ③-2 職場見学やインターンシップについても積極的に取り入れる。 ③-3 ハローワークと連携してより生徒の要請や適性に応じた進路開拓を実施する。 ③-4 特別支援を要する生徒に対し専門機関と連携した指導をする。【専門機関との連携：年1回以上】	活動計画の実施状況 ①-1 積極的に実施できた。[説明会4回実施,面談32回実施] ①-2 連携できている。 ----- ②-1 適宜実施した。 ②-2 全体・個別補習を実施した。 ----- ③-1 個人面談,また必要に応じて三者面談を実施した。 ③-2 今年度は神山創造学において町内でインターンシップを実施した。 ③-3 生徒の就活塾への参加や進路開拓に関しても連携できた。 ③-4 保護者・事業所・関係機関と連携する中で斡旋できている。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方法
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
5 特色ある教育活動の推進	(全体レベル)	評価指標 ①-1 神山つなぐ公社との連携を積極的に行う。【三学期で5回以上】 ①-2 神山サテライトオフィス(加盟企業)との連携を積極的に行う。【三学期で5回以上】 ①-3 NPOグリーンバレーとの連携を積極的に行う。【三学期で3回以上】 ①-4 中央森林組合との連携を積極的に行う。【三学期で3回以上】 ①-5 小・中学校との連携を積極的に行う。【三学期で3回以上】 ①-6 神山町役場との連携を積極的に行う。【三学期で3回以上】	評価指標の達成度 ①-1 孫の手プロジェクト等の実施 【実施回数：18回】 ①-2 レーダーカッター等KMSとの連携事業 【連携回数：10回】 ①-3 神山創造学を通じた連携実施 【連携回数：5回】 ①-4 中央森林組合での職場体験学習を実施 【連携回数：3回】 ①-5 フード・ハブプロジェクトを通じた小・中学生との連携 【実施回数：4回】 ①-6 林業担い手育成事業等において連携実施 【実施回数：3回】	学校関係者の意見 I) 地域を元気にしてくれる活動になっており、今後とも大いに期待している。 ① 生徒自らが考え、行動できるよう地域と一体となった連携活動を継続していきたいと考えている。 II) 生徒の学びとそれぞれの学科の基盤をしっかりと見定め、上での取組を推進してほしい。 ① 学科での学びの表現として、効果の大きい校外での活動を取り入れており、今後とも生徒への意識付け・振り返りは継続していきたい。 III) 地域の特産物にも目を向け、栽培等を継承していくなどの取組も活動に盛り込んでほしい。 ① 今後、検討を重ねる中で取り入れるべきものは積極的に活動に盛り込みたい。	次年度の課題と今後の改善方法 ○孫の手プロジェクトはリーダーとなる生徒が課題で、経験を積ませ育成していく。 ○森林女子部が中心となつて連携がとれといるが、施設利用料に負担がかかっている。 ○校外の活動で職員の確保が課題、今年度は教科担当者以外に協力を求めた。 ○林業担い手育成事業(徳島県中央森林組合)の協力が必要である。 ○中学との連携を積極的に実施する必要がある。 ○神山町との連携は継続性が図られてはいるが、担当者間の引継ぎがポイントとなる。
	(下位組織レベル)	活動計画 ①地域活性化に向け、専門教育を生かした地域貢献活動 ②自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動及び環境保護活動の推進	活動計画の実施状況 ①-1 依頼者との企画会議を重ねることでコミュニケーション能力も養われた。 ①-2 神農祭で生徒考案弁当を150食販売し、2万円の利益計上が見込まれる。 ①-3 苗木の生産に関して継続的な取組ができており、挿し木等で80%以上の発根率が保っている。 ①-4 古民家改修プロジェクトは実施できない。 ①-5 神山国際交流プロジェクトにおいてオランダへの派遣生徒を2名選出できた。 ①-6 就職状況は現在未定である。 ①-7 連携については12月実施予定であり、商品開発等も現在試作中である。 ①-8 役場や4K国際映画祭等で報告会を計画している。 ②-1 アドプト作業で除草作業をこれまで8回実施した。神領ユリ保護活動も2回実施。		

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価		
6 防災・環境教育の推進	(全体レベル) (1)安全な生活空間づくり・防災意識の高揚を図る。 (2)学校版環境ISO認定校として実践を推進する。	評価指標 ①-1 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回以上】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【年間 3回以上】 ①-3 防災クラブの活動 【地域・連携による活動1回以上】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 1名以上】	評価指標の達成度 ①-1 避難消火訓練の実施 【12月に実施】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【7月・9月・11月に実施】 ①-3 防災クラブの活動 【防災キャンプ・防災ワークショップの実施】 ①-4 高校生の防災士の育成 【防災士合格者 5名】	I) 再開時の担い手育成に取り組んでほしい。 ① 高校生防災士の資格取得者も年々、増加傾向にあり、防災に対する意識付けも高まってきている。 II) 活断層等に関する知識や情報もしっかり学校として共有する中で生徒に伝えてほしい。 ① 教職員研修等により、教職員組織の中で活断層等に関する認識を高め、授業やあらゆる機会を捉え、生徒にも伝えていくとともに地域の防災マップづくりにも取り組みたい。	○積極的な防災活動を通じて、地域で活動できる生徒の育成に力を入れたい。 ○防災士を中心とした防災クラブの活動を活性化させていきたい。 ○地域と連携した防災活動を実施していきたい。 ○教室美化コンテストを継続し、生徒の環境美化に対する意識を高めていきたい。
	活動計画 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善する。 ①-3 地域・防災クラブが連携し炊きだし体験を実施する。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施している。 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第早急に改善している。 ①-3 防災キャンプやワークショップを積極的に実施した。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施した。エピペン使用の教職員研修の実施を含む。			
	(下位組織レベル)	②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【年間 3回以上】 ②-2 教室美化コンテストを実施 【各学期 3回以上】 ②-3 鮎喰川の水生物調査を実施 【年間 1回以上】	②-1 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【計画通り実施】 ③-2 教室美化コンテストを実施 【各学期 3回実施】 ④-3 鮎喰川の水生物調査を実施 【9月に実施】	(所見) ・防災クラブを「神農クラブ」のメンバーで立ち上げ、活動をしている。今年度も「守るぞ！地域防災推進業」を継続しており、防災研修にも積極的に参加し、防災意識を高めている。また、本年度は高校生防災士に5名が合格し、資格試験にも挑戦している。 ・防災キャンプやワークショップなど、地域と連携した活動に取り組むことができた。	

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成